

## 二〇一九年度 茨城キリスト教大学入学試験問題

### 国語 (B日程)

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

この八十年代は地方の時代になるだろう、<sup>(注1)</sup>と言われている。私自身もそれを確信している。社会のあらゆる面において地方の特性が尊重されることになる。すでに大きなうねりへの A が始まっているという実感がある。その一方では、国際化社会への新たな対応の必要性も言われる。地方の時代と国際化時代とは決して相容れないものではない。両方とも日本の将来にとって不可欠であって二者択一を迫る性質のものではない。これまでの日本は物的繁栄を追い求めるあまり、心のゆとりを失った。これからは物よりも心が大切だ、とも言う。これにはいささか同意しかねる。物だ、心だ、という分け方自体はなほ奇異に思われる。そのようにきれいに区分できるほど現代の社会は単純ではない。

最近では、開発か、保存か、という迫り方もある。あたかも両者を対決させるかのようでこれもまた賢明な方法ではない。開発はいつの世の中でも必要であり、保存を強調するあまり、すべての開発を悪であるかのように B のはよくない。その逆もかりである。

私は職業柄、建築文化という言葉が気に入っている。「建築」には堅い「物」のイメージがあり、「文化」には柔らかい「心」のひびきがある。また、衣・食・住という言葉がある。衣と食が足りてこそ、その残りの余裕の部分が住、すなわち建築文化に振り向けられるということなのだと思う。私の言う建築文化とはそのようなものであり、その振興に向かつてならば、あらゆる努力を惜しまないつもりである。

私の周辺には、建築や都市計画の専門家が多い。使い易い建築、住み易い都市をつくるために日夜 C している。しかし現実はどうか。決して満足できるような状態ではない。原因はどこにあるのだろうか。建築のことは建築家に、都市のことは都市計画家にまかせようという風潮に起因するのではないか。 D それがさほど遠い昔のことではないことに最近になって気がついた。かつての土浦には自分達の身のまわりのあらゆる出来事に関心を持ち、真剣に将来のことを考える力があつた。その一例を挙げよう。

土浦はかつて水と緑の町であつた。もともとは低湿地に開かれた城下町であつたから、町の至るところに大小の水路があつたものだ。私の少年期にすらそのような姿をとどめていた。その頃住んでいた八間道路に沿って川が流れていた。大雨のあとには、霞ヶ浦からのぼってくる鯉・鮒・うなぎ・

どじょうをバケツ一杯位掴まえるのは E もないことであつた。それはさておくことにして、昭和初期の土浦町民を二分するような大論争があつたことを紹介しよう。

この頃になると常磐線や自動車による陸上輸送力が、水上のそれを上まわり、かつて交通・輸送の大動脈として町の中心部まで入り込んでいた川口(注2)の利用も F 減つてきた。この川口川埋立てをめぐつて賛成・反対両派の主張は次のようであつた。

埋立て賛成派の主張は「県南随一の商業地を誇り、将来の大都会建設気運、益々濃厚なる土浦の大玄関たる駅前より、本町に通ずる街路は、狹隘(注2)にして貧弱甚しく、殊に街路に伴ふ川口川は、(中略)汚水腐敗し悪臭鼻を突き、不衛生極まり、大都市の美観を損ふことおびただし」というもので、役場前から朝日橋までの川口川を埋立て、下水暗渠(注3)とし、埋立剰余地一〇四七坪を住民に売却したお金で他の道路の拡張費に当てることができ、町費を一銭も使わずにすむ一挙兩得の解決策である、と主張する。

埋立て反対派の主張は「人口二万人に達せぬ土浦が大都市を真似、経済に根柢を置かず、大都市計画を企てるは百年の計を誤るもの」とし、旧市街地を中心とする放射状の道路網をつくるのではなく「耕地整理区に都市計画の手心を加へ、旧市街を中心とした直射的新街路網を計画し、先ず都市計画法第一条の精神たる交通、衛生、保安、経済の要素に達すべし。川口川を全部埋立てずに流水し水郷の美を市街に添へ一段の光彩を加へ、街路、水路共に利用し、交通、商業に便を与ふるにあらずして全部埋立てる時は悔を後世に遺さん」であつた。

若干の G はあつたが結局、川口川は昭和七年から十年にかけて埋立てられたのである。私自身が当時生きていれば後者の立場に立つたであろう。川は流れてこそ意味がある、というところはとくに強調されてよいだろう。賛成・反対の立場はともかく、このような議論が湧いたこと自体に、私は非常な関心を持つ。町づくりの手続きとして健全な姿である。この頃までは少なくとも土浦には町づくりへの積極的な住民参加のエネルギーがあつた。それはまた、土浦の商業が江戸時代から引き継いだ活力をこの頃まで持続していたことの証しでもあつた。何を捨て、何を後世に残すべきかの議論が出来る町は魅力的である。それなくして町づくりができるものではないことを私達の先輩は示してくれたのである。

現在の都市計画には、どこで決定されたのか定かではないままに、重要な都市改変が次々と行なわれているような、いささか暗い感じがつきまどつている。これはまことに H である。住民の意見を聞くという、形ばかりの行政的仕組みだけでは長期的な町づくりの展望は生れない。住民側としても日頃から「自分達の町」への関心を深める習慣を身につけることが町づくりの根本であることをそろそろ悟るべき時がきた。

(二色史彦「人間の住むところ」より)

注1 一九八〇年代のこと。

注2 霞ヶ浦から土浦の町中をつないでいた川のこと。かつては城や商家の物資輸送に盛んに使われていた。

注3 地下に設けられていて外からは見えない水路のこと。

問一 本文中の空欄A～Hに入れるのに最もふさわしい言葉を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

A	ア 振動	イ 扇動
ウ	律動	エ 胎動
B	ア あてつける	イ きめつける
ウ	かこつける	エ たきつける
C	ア 推進	イ 躍進
ウ	邁進	エ 増進
D	ア しかも	イ なぜならば
ウ	あたかも	エ ところで
E	ア 所作	イ 雑作
ウ	操作	エ 佳作
F	ア めつきり	イ おもむろに
ウ	さつぱり	エ ひとしきり
G	ア 曲面	イ 曲折
ウ	曲線	エ 曲論



Ⅱ 次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑤の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- ① 担当者の無責任な態度に憤慨した。
- ② 住民票と戸籍謄本を提出してください。
- ③ 彼の信用は完全に失墜してしまった。
- ④ 彼女は一芸に秀でた人と言える。
- ⑤ その外国人は、空港の税関で入国を拒まれた。

問二 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 彼のトウトツな質問に面食らった。
- ② 賃金の値上げ交渉がダケツした。
- ③ 新聞は、今なお重要な情報バイタイと言える。
- ④ 災害時にはジンソクな行動が求められる。
- ⑤ 寒さで手の指がコゴえてしまった。

問三 次の①～⑤の四字熟語中の□に当てはまる漢字を、それぞれa～dから選び、記号で答えなさい。

- |   |      |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | □合集散 | a | 離 | b | 利 | c | 理 | d | 吏 |
| ② | 周章□狼 | a | 老 | b | 狼 | c | 勞 | d | 弄 |
| ③ | 容姿□麗 | a | 胆 | b | 淡 | c | 端 | d | 鍛 |
| ④ | 二律□反 | a | 配 | b | 廢 | c | 背 | d | 排 |
| ⑤ | 本末転□ | a | 頭 | b | 当 | c | 統 | d | 倒 |

問四 次の①～⑤の慣用表現に使われている漢字(傍線部) 2字中1字が誤っています。その誤りを直し、正しい漢字1字を書きなさい。

- ① 大事な会議中に睡<sup>スイ</sup>摩<sup>マ</sup>に襲<sup>ウラ</sup>われてしまった。
- ② 大型台風がまた日本に接近してきたとは、優<sup>ユウ</sup>慮<sup>リョ</sup>に耐<sup>タ</sup>えない事態だ。
- ③ あわてずに次のチャンス<sup>カ</sup>を待<sup>マ</sup>とう。果<sup>カ</sup>宝<sup>ホウ</sup>は寝<sup>ネ</sup>て待<sup>マ</sup>てと言<sup>イ</sup>うではないか。
- ④ この件<sup>ケン</sup>に關<sup>カ</sup>して安<sup>アン</sup>易<sup>イ</sup>な讓<sup>リョウ</sup>歩<sup>ポ</sup>をすれ<sup>ス</sup>ば、將<sup>シヤウ</sup>来<sup>ライ</sup>に禍<sup>カ</sup>困<sup>コン</sup>を<sup>マ</sup>残<sup>ノコ</sup>すだろ<sup>ウ</sup>う。
- ⑤ 新装開店<sup>シンサウカイテン</sup>のその店<sup>テン</sup>の前<sup>マエ</sup>には、長<sup>チヤウ</sup>駄<sup>ダ</sup>の列<sup>レツ</sup>が<sup>デ</sup>出<sup>デ</sup>来<sup>キ</sup>た。

問五 次の①～⑤の意味を表す語句として最もふさわしいものを、それぞれa～dから選び、記号で答えなさい。

- ① 相手に遠慮して気をつかい、自分のしたいことをしないでいること。  
a 気に病む                      b 気を回す                      c 気兼ねする                      d 気をもむ
- ② 人の頼み事や相談などに全く対応せず、拒絶するさま。  
a けんもほろろ                      b ぶっきらぼう                      c 不調法                      d 無頓着
- ③ 良いことだから、それを積極的に行うようと、人にすすめること。  
a 勧誘する                      b 勧請する                      c 推奨する                      d 推薦する
- ④ 礼儀ただしく、注意深く大切にあつかうこと。  
a 敬虔                      b 寛容                      c 謙虚                      d 丁重
- ⑤ 対象となる物事の長所や短所を指摘して、その価値を論じること。  
a 非難                      b 審判                      c 批評                      d 論破

国語解答用紙 (B日程)

I

F	A
ア	エ
G	B
イ	イ
H	C
ウ	ウ
	D
	ア
	E
	イ

問二  
物より心という考え方やそのものを否定したのではなく、物と心を区別するという単純な思考の枠組みを否定したため、

問三	1	×
	2	○
	3	○
	4	×
	5	○
	6	×

小計

小計

小計

受験番号

題名  
学校  
づくりの根本

問四  
学校では体育祭・文化祭など様々な行事が行われるが、私たちは生徒は生徒は先生に頼り過ぎてはならない行事が行われるが、に生徒は生徒は先生に頼り過ぎてはならない行事が行われるが、が、生徒は生徒は先生に頼り過ぎてはならない行事が行われるが、本があるところ。作ることに合っ様々な問題に向かうことが

150字 100字 50字

小計

II

問一  
① ふんがい  
② とうほん  
③ しつつい  
④ ひい  
⑤ こば  
まれた

小計

問二  
① 唐突  
② 妥結  
③ 媒体  
④ 迅速  
⑤ 凍  
えて

小計

問三  
① a  
② b  
③ c  
④ c  
⑤ d

小計

問四  
① 魔  
② 憂  
③ 報  
④ 根  
⑤ 蛇

小計

問五  
① c  
② a  
③ c  
④ d  
⑤ c

小計

総計